

思想のキーワード 2021 : Healing from a distance

COVID-19 pandemic は、近い将来医学的には収束し、社会心理学的不安も沈静化されることと思います。世界の状況を鑑みると、COVID-19 pandemic が緩和ケアへもたらした今日的課題として、致死的な“感染症の緩和ケア”と“Telemedicine と緩和ケア”が提起されたと思います。

Telemedicine は COVID-19 pandemic によりこれまでの歴史を越えて加速度的に多くの医療分野で開発実施されています。医療者と患者、家族と直接対面できない状況でその必要性和提供方法が主なテーマとなっています。緩和ケアの分野でも多方面で議論されています。ここでこの課題に対して基本的な二つの概念を整理する必要があるでしょう。

一つは WHO が 2010 年に telemedicine に関する報告書を提出し、その中で keyword として“Healing from a distance”を採用していることです。そしてこの領域を“infoemation system and communication technologies”と規定しています。従って distance という言葉は、物理的な距離のみならず心理的距離の意味を含んでいます。つまりは単純な遠隔医療を意味するのではなく、“遠くからの（距

離を超えた)癒し”が真の意味であることです。2021年の東札幌病院は”Healing from a distance”を keyword として学びを深めたいと思います。

いま一つは telemedicine を含む digital health と AI 技術の領域においては、常なる新しい技術の開発と共にそれに応じた用語が施され、また同じ領域に対しても切り口が違えば用語も変わるなどの混乱が起きていると言われています。

用語の整理も困難な現状のようです。ところが英国などではそれらを科学的に組織化し医療を行なっています。その際の総称を”technology enabled care(TEC) servides”としています。今後この TEC の名称で新しい領域が切り拓かれていくと思われます。この二つの概念の本質は同じであり、まさしく”healing from a distance”です。

2022 年開催の 3rd / 4th joint Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer の symposium の一つに TEC in palliative-oncology の企画を検討しています。この時改めて TEC を通して communication とは何か、care とは何か、の本質的な議論がなされることでしょう。

